

MURC Focus

ル・ペン氏が次期フランス大統領選出馬可能に

～2027年の大統領選の注目の的～

調査部 主任研究員 土田 陽介

- 右派政党である国民連合(RN)を率いるマリーヌ・ル・ペン氏が来年4月と5月に予定されているフランス大統領選に出馬できることとなり、大統領選の台風の目となった。
- ただし、いずれの展開でも新政権は少数与党内閣を余儀なくされる公算が大きく、フランス政治の停滞の打破は期待できない。
- 今回、ル・ペン氏に出馬の道が開けたことで、大統領選の混迷度合いがさらに深まったと言える。フランス政治の動向はEUにも大きな影響を与えるだけに、引き続き注視する必要がある。

1. ル・ペン氏は控訴審でも有罪判決だが大統領選の出馬は可能に

7月7日、フランスの首都パリの控訴裁判所は、右派政党である国民連合(RN)を率いるマリーヌ・ル・ペン氏に対して、欧州連合(EU)の資金を巡る公金不正流用罪で再び有罪判決を下した。ただし、被選挙権の停止期間が「執行猶予付きの3年9カ月」に短縮されたことから、来年4月と5月に予定されている大統領選に出馬できることとなった。ル・ペン氏は早々に出馬の意向を示しており、大統領選の注目の的になった。

現職のエマニュエル・マクロン大統領はすでに二期を務めているため、憲法上の多選規定に基づき、次回の大統領選には出馬できない。一方、来年の大統領選には保革の立場を問わず、多くの政治家が出馬を表明している(図表1)。そのため来年4月18日に行われる第1回の投票で過半を制する候補者は現れず、5月2日に決選投票が行われる運びとなることがほぼ確実の情勢である。

図表 1. 大統領選に出馬する候補

	所属政党	政治的立場
ナタリー・アルトー	労働者の闘争	左派
ジャン＝リュック・メランション	不服従のフランス	左派
ファビアン・ルーセル	共産党	左派
ラファエル・グリヨックスマン	プラス・ピュブリック	中道左派
マリン・トンデルリエ	緑の党	中道左派
エドゥアール・フィリップ	地平線	中道右派
ブルーノ・ルタイヨー	共和党	中道右派
ニコラ・デュポン＝エニャン	立ち上がれフランス	右派
マリーヌ・ル・ペン	国民連合	右派
エリック・ゼムール	再征服	右派

(出所) 各種資料

図表 2. 現状の有力シナリオ

シナリオ番号	内容
シナリオ① 反ル・ペン連合が成立する展開 (フィリップ元首相)	<ul style="list-style-type: none"> ● 実務経験が豊富で国民的な人気が高いフィリップ元首相(中道右派)が大統領に就任 ● 中道と左派の協力が前提であるため経済政策運営が左派寄りになる可能性が高い ● 中道と左派の対立のために国政運営が停滞するリスクがある
シナリオ② 反ル・ペン連合が成立する展開 (フィリップ元首相以外)	<ul style="list-style-type: none"> ● 中道左派ないしは左派候補の下で反ル・ペン連合が組成されるために左派大統領が誕生する ● ジャン＝リュック・メランション氏ら極左の性格を持つ指導者の影響が強まる可能性が高い ● 左派政策が過激化し金融市場が混乱するリスクがある
シナリオ③ 反ル・ペン連合が成立しない展開	<ul style="list-style-type: none"> ● マリーヌ・ル・ペン氏が大統領に就任(ジョルダン・バルデラ首相の公算大) ● 極端な右派政策は採用されず現実路線が採られる可能性が高い ● 中道および左派との対立で国政運営が停滞するリスクがある

(出所) 当社作成

現状、有力視されるシナリオは①フィリップ元首相が統一候補になる形で反ル・ペン連合が成立する展開、②フィリップ元首相以外が統一候補になる形で反ル・ペン連合が成立する展開、③反ル・ペン連合が成立しない展開(ル・ペン氏が当選する展開)の3つとなる。ただし後述のように、いずれの展開でも新政権は少数与党内閣を余儀なくされる公算が大きく、フランス政治の停滞の打破は期待できない。

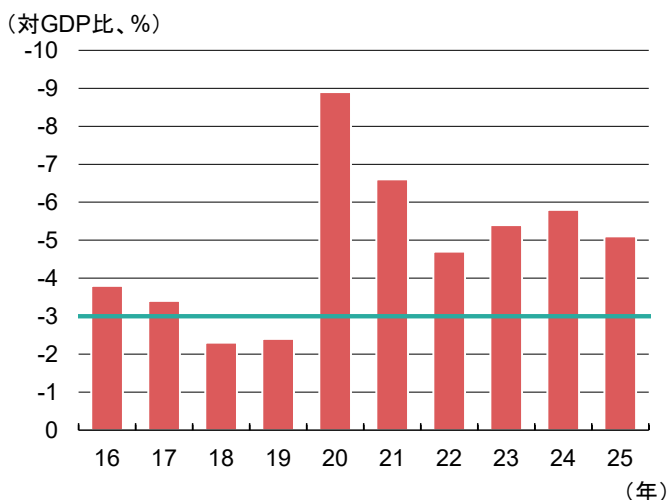
2. 過激路線を退け現実路線を歩めるかがカギ

いずれの候補が大統領になっても、フランスの財政再建は待ったなしの情勢である。フランスの財政赤字は欧州連合(EU)が定める財政ルール(対GDP＝国内総生産比3%以内)の逸脱が続いており、EUからその是正が求められて久しい(図表3)。マクロン大統領は財政再建を重視してきたが、野党が強く反対してそれを遅らせてきたのが近年のフランス政治の動きである。

仮に中道右派のフィリップ氏が新大統領となった場合、投資家は財政再建路線の継続を好感すると考えられる。一方、右派のル・ペン氏が新大統領になっても、イタリアのメローニ政権のような現実路線を採ることができれば、投資家の懸念も徐々に払拭されよう。実際、ル・ペン氏ならびに国民連合の政治姿勢は過去に比べるとかなり現実寄りに修正されており、それが有権者の人気にもつながっている。

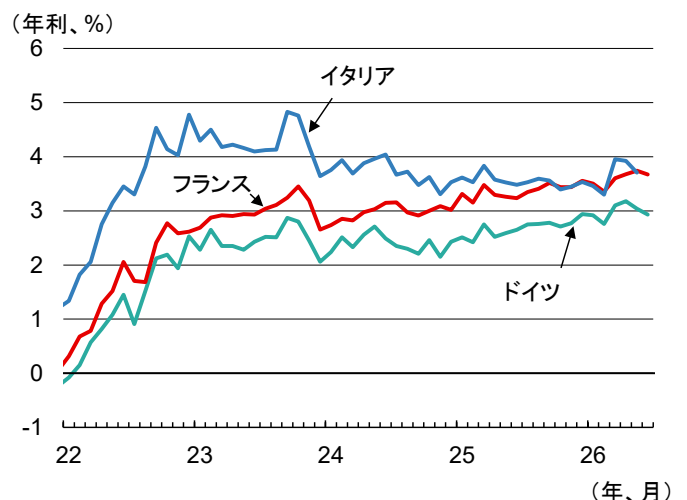
他方で、ジャン＝リュック・メランション氏ら左派から新大統領が誕生した場合、拡張型のマクロ経済運営を志向するリスクが大きい。投資家との間で適切なコミュニケーションに努めなければ、すでに高水準で推移しているフランスの長期金利が一段と上昇する事態は免れない(図表4)。フランス発の財政不安がヨーロッパを襲う可能性も現実味を帯びてくる。

図表3. フランスの財政収支



(出所) 欧州連合統計局(ユーロスタット)

図表4. 各国の10年国債流通利回り



(出所) 各国中銀

3. EUの政策停滞につながる恐れも

現職のマクロン大統領は EU での影響力が強く、ウルズラ・フォンデアライエン欧州委員長の事実上の庇護者的な存在である。言い換えれば、マクロン大統領のもとでフランスは EU に対して一定の影響力を行使できたが、新大統領のもとではそうした影響力を行使できるか定かではない。特に EU との対決姿勢を鮮明に打ち出す新大統領が就任した場合、EU との関係悪化が意識され、金融市場で“フランス売り”が生じる懸念がある。

同時に意識されるのが、EU の政策停滞である。フランスの政界は左派と中道、右派の三つ巴の状況が定着して久しく、どの勢力から新大統領が誕生したとしても、少数与党政権を余儀なくされるため内政運営が停滞する恐れが大きい。フランスは EU の政治的な中心であるだけに、フランスの内政運営の停滞が EU の政策停滞につながるリスクを意識せざるを得ない。

フランスの大統領選が行われるのは来年の 4 月と 5 月であるため、まだ時間がある。しかし今回、ル・ペン氏に出馬の道が開けたことで、大統領選の混迷度合いがさらに深まったと言える。フランス政治の動向は EU にも大きな影響を与えるだけに、引き続き注視する必要がある。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。